

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4161090032		
法人名	社会福祉法人 佐賀キリスト教事業団		
事業所名	グループホーム シオンの園 くつろ樹		
所在地	佐賀市大和町大字久留間3865-1		
自己評価作成日	平成23年10月20日	評価結果市町村受理日	平成24年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成23年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成20年(2008年)4月にISO9001(国際標準化機構の認証)を取得し、ご利用者様へのサービスの質の維持・向上に努めています。また、母体施設の経営理念、処遇モットーを柱に、くつろ樹では「家庭的な環境の下で地域住民の方々との交流を図りながら、ご利用者様お一人おひとりが個人の個性や持てる力を大切に、自分らしく当たり前の暮らしを続けられる場所であるよう努力します」を基本方針として掲げ、また、常に笑顔で接し、ご利用者様がご自分の思いを伝えやすい家族のような存在となり、安心して楽しい生活を送っていただけるよう、ご利用者様の意思及び人格を尊重し、常にご利用者様の立場に立った支援を目標に努力しているところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年、地域福祉に従事した法人で、当該施設も母体施設の理念を浸透させており、地域に根ざした活動が行われている。母体施設と同敷地内であることを活かし、日頃から職員相互の交流、研修が実施されている。利用者同士の交流も行われており、利用者からも好評を得ている。国際標準化機構の承認を取得しており、各種マニュアルに基づいた系統立った業務が確立されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体施設の経営理念、処遇モットーを基本に、くつろ樹独自の基本方針、目標を立て、取り組んでいます。また、ISOの品質目標及び事業計画は毎年、基本方針を基に作成しています。	法人の経営理念、処遇モットーのほか、毎年事業所独自の目標を作成している。毎月の会議で進捗状況を確認評価している。評価内容は運営推進会議でも報告されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体施設と共に自治会、老人会の方々の協力を得て、夏祭り等を開催しています。また、地区行事の案内をいただいた際には、積極的に参加しています。	法人が実施する夏まつりには、100名を超えるボランティアが参加する等、地域住民の協力が得られている。地域の行事に多数参加し、職員も地域の除草作業、掃除などに積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体施設の経営企画室において、地域での出張講座を開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催中。行事報告、予定、ホーム内での出来事等を報告し、家族、民生委員のご意見や質問、また、くつろ樹側からの提案等について話し合い、サービスの向上に活かす努力をしています。	全ての家族へ案内をし、半数程度の参加が得られてる。目標の進捗状況、活動報告や利用者の状況報告、地域行事の情報提供や交流活動への提案、防災対策等について協議や質疑応答・提案等がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において情報交換を行っており、情報交換や意見交換を行う事で、協力関係を築いています。	サービス提供に関する日常的な疑問や質問、相談等を行い、市の担当者側より、困難事例の相談を受けることもある。互いの協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が身体拘束について正しい理解ができるよう、園内研修会等を開催しており、正しい理解のもと身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束をしないケアに関する事業所の指針を掲げ、いつでも閲覧可能な状態にしている。2ヶ月毎に身体拘束排除に向けた目標を設定し、職員個人ごとのチェックリストに基づいた評価を毎月行っている。新人研修でも教育が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待セミナー」への参加や「高齢者虐待と思われる行為」についての文書を目の届くところに貼り、常に意識を持ちながら、日々の業務を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加はありませんが、パンフレットの回覧等により知識の向上に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用契約書、重要事項の十分な説明及び退居時にも十分な説明、話し合いの場を設け、ご理解、納得いただけるよう対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議に参加していただき、ご意見を尋ねる機会を設けています。また、年2回無記名でのアンケートを実施しご意見や不満、苦情等を表せる機会を設け、意見等に対しての是正を図っています。	運営推進会議での家族からの意見聴取のほか、サービス担当者会議での聞き取りも行われている。出された意見については、その都度業務内容の見直しを行い意見を反映させている。家族へのアンケートも年2回実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1～2回の個人面談時や毎月の部会等での意見、提案を基に上申しています。	法人全体で年2～3回実施される会議において、職員も意見を提出できる仕組みとなっている。法人内にあるグループホーム全体の会議でも意見の聴取がなされている。日常的に管理者がコミュニケーションをとり、意見を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課及び所属長での聞き取り調査などを行い、また、福利厚生にも力を入れており、働きやすい環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間教育訓練計画に基づき、職員の研修参加の機会を設け、知識、技術の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム関係の研修会参加を通じ、同業者との交流の機会を持ち、他施設の状況や情報を収集し、自施設のサービス向上に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者により相談から利用に至るまで、十分に配慮しています。また、利用を開始する段階では、施設内の見学を含め、管理者による面談等を通じ、ご本人が安心してご利用いただけるよう努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者により相談から利用に至るまで、十分に配慮しています。また、利用を開始する段階では、施設内での見学を含め、管理者による面談等を通じ、ご本人が安心してご利用いただけるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者にて十分に配慮されています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、洗濯物干しや洗濯物たたみ、拭き掃除等、共に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やサービス担当者会議、運営推進会議等を通じ、より良い信頼関係を築く努力をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のなじみの方々の面会時には、居室へ案内するなど、ゆっくりと過ごしていただけるよう配慮しています。	友人、知人との面会、希望に合わせた外出・外泊など、積極的に機会を設けている。グループホーム入居前に利用していた、敷地内のデイサービスに出向き、友人と交流する等の取り組みもなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を職員全員が共有し、ご利用者お一人おひとりの個性を大切にしながら、席順の配慮やトラブルになる前の早めの対応を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人全体の中での取り組みを行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議や毎日の生活の中で、ご本人の希望や要望を把握する努力をしています。また、何時でも利用者主体であることを忘れずに取り組んでいます。	日頃の会話の中で出てきた言葉を書きとめ、家族からも面会時に情報を収集し、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント時やサービス担当者会議、日常の会話や面会時等の会話を通じ、生活歴や今までの経過等を把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様一人ひとりの現状を十分に把握できるよう、毎月の部会等で話し合いを行っています。また、急な変化等についても職員連絡ノート等により職員間の連絡を密に取り、状態把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にサービス担当者会議を開催し、半年に1度は家族、利用者に同席していただき、意見や要望等を反映した計画作成に努めています。	担当職員が、他の職種から情報を収集し計画を作成している。入居前に利用していた介護サービスのケアプランも活用し、継続性のあるケアプランの作成がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況は各ケース記録に記載し、ケアプラン実施状況についても業務チェック表にて記録しています。また毎月の部会においてもケアプランの実施状況等を協議しながら実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、本人や家族の要望に応じ、対応できることについては臨機応変に対応しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、民生委員の訪問、消防署立会いでの消防避難訓練を行っています。夏祭りには地域のボランティアや自治体等の協力を得て開催しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族の希望があれば、ホーム協力医へ変更しておりますが、以前からの主治医を希望される利用者に関しては、家族を通じ十分な情報交換に努めています。	入居時に確認をとり希望に応じている。受診について基本的には家族の対応であるが、必要に応じて職員の付き添いも行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専従の看護師にて日常の健康管理を行っています。また、急な対応に関しては法人の医務看護課職員の協力もあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には定期的な病状伺いを行い、担当医、担当看護師、ご家族との情報交換を密に行いながら、早期退院に向けての話し合いの場を設けていただいています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針及び看取りに関する指針を定めており、協力医療機関と共に支援していく体制づくりに努めています。	入居時に指針を説明し、利用者の状態変化等に合わせ、随時意見交換が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応できるよう、周知徹底を行っており、その場での実践に備える努力をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災自動通報装置、消火器、スプリンクラーを設置しております。また、毎年、消防計画を作成し、昼間・夜間帯での定期的な消防訓練を実施しております。近隣の方にも協力をお願いしています。	法人内の特別養護老人ホームと連携して、毎月防災訓練を実施している。訓練の際には近隣住民に連絡を行い協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会や部会を通じ、常に個人の尊厳を重視した対応を心がけています。	入居時に同性介護の希望について確認が行われている。声かけについても配慮し、毎月接遇に関する目標の設定し、自己評価を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意思を尊重し、自己決定の存続が図れるような対応を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者主体の生活を心がけ、利用者の立場に立った支援ができるよう努力しています。また、その日、そのときの状況により決して無理強いをしない柔軟な対応を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や化粧など、本人の意思を尊重しながら対応しています。自己決定が困難な利用者には、その方に応じた支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の持てる力を活かしていただけるよう、食事の下拵え、おかずのつぎわけ、後片付けや食器拭き等を職員と共に行っています。昼食は職員も同じテーブルで摂っています。	入居者同士の相性に配慮した座席配置がなされ、食事の準備や下拵えなど、個人のできる力を活かし支援されている。流しソーメンなど季節ごとに食事を楽しむ工夫もなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態を把握し対応中です。また、利用者の好みのものを誕生会のメニューに加えるなど、個々に応じた対応を心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行える利用者には、毎食後の言葉かけを行い、介助が必要な利用者には、個人に応じた対応を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の排泄案内や行動を察知しての排泄案内を行い、また、自立された利用者に関してもトイレ内の確認を行うなどして、利用者の排泄状況を把握しながら、その時々状況に応じた支援を行っています。	排泄パターンを把握しながら支援手順を定め、可能な限り自立に向けた個別支援が行われている。尿便意がない方へもさりげない声かけを心がけ、トイレへ誘導する等の配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品を食事やおやつの中に取り入れています。便秘傾向にある利用者に関しては、腹部マッサージ等の対応や運動への働きかけを行い、できる限り、自然排便となるよう心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時々利用者の状況や入浴希望に則した対応を心がけています。	午前、午後とも入浴を実施している。回数、順番等希望に合わせて、週2回以上の入浴が行われている。入浴の拒否がある場合にも、清拭を行うなど適切な対応ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状態や日中の様子等、状態把握を行い、ソファにて寛いで頂いたり、場合によっては自室での静養を勧めるなどの対応を行っています。また、できるだけ日中の活性化を図りながら、安眠に繋がるよう努力しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の説明書は各個人のケースファイルに入れ、すぐに確認できるようにしています。内服変更時には連絡ノート及び健康管理表やケース記録に記録し職員への周知徹底を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や残存機能を把握し、生活の中で、役割や遣り甲斐を感じて頂けるような機会や場面作りに取り組み、もてる力を十分に発揮していただけるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の状況や希望に沿って外出できるよう努めています。また、家族の希望に応じた外出支援にも努めています。	日常的な散歩のほかに、花見や行楽、外食や観劇等、計画的な外出もある。また、家族とも連携しながら個別の外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持し使えるように対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときには都度対応中です。また、手紙やはがきが届いたときには、返事を書いていただいたり、電話を入れております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光は天候によって障子を締めたり、よしずを使用するなどの配慮を行っています。室温湿度に関しては、1日3回のチェックを行い、快適に過ごして頂けるよう配慮しています。また、季節感を感じて頂けるよう、毎月、手作りのカレンダーを貼っています。	季節の花が活けられ、落ち着いた感じのインテリアとなっている。季節感を意識的に取り込んだ装飾や、壁紙等、居心地良く過ごせるように工夫している。広いリビングは程よく採光され、空気清浄機が設置され、湿度のコントロールも行われており、くつろげる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広間のテーブルや周辺のソファ、台所側のくろろぎスペース、暖かい日にはウッドデッキなど、お好きな場所で思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた物品等の持ち込みについての説明を行い、家族で準備して頂いています。また、誕生日プレゼント等で好みの物品を準備し飾る等、居心地よく過ごして頂けるよう心掛けています。	個人の慣れ親しんだ物が持ち込まれ、入居者の心身状況や生活習慣等にも考慮し、居心地の良い居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別支援を大切にしながら、個々に応じた対応を心がけ、安全且つできるあけ自立した生活が送れるよう努力しています。各居室にはネームプレートを使用。建物自体はバリアフリーとなっています。		